



令和6年度 甲府市立大里小学校 学校たより

青桐の香



あお ぎり か あいば 饗場 宏
文責 饗場 宏

夢に向かってのびゆく大里の子 ~楽しさは健康と安全から~
ふるさとの学校 大里小学校

今号では、4月18日(木)に全国で一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について報告いたします。この調査は6年生が対象ですが、結果は本校児童全体の傾向として捉えます。調査の内容は、教科に関する調査(国語・算数)と生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の2つです。また、調査の目的は、①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。*とされています。

それでは、以下に、本校児童の調査結果の概要等についてお知らせします。*文部科学省 HP

教科に関する調査から

① 見いだされた課題

【国語】

- ・漢字を文の中で正しく使うこと。
- ・文中における主語、述語の関係を正しく捉えること。
- ・物語を読んで自分が心に残ったことを、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら記述すること。
- ・資料にある記述から、内容を適切に読み取ること。また、読書が自分の考えを広げるうえで役立つことに気づき、日常的に読書に親しむこと。

【算数】

- ・問題場面の数量の関係を捉え式に表すこと。・速さの意味を理解すること。
- ・計算に成り立つ性質を活用して計算の仕方を考え、求め方を式や言葉を用いて記述すること。
- ・球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉えること、立方体の体積の求め方を式に表すこと。
- ・除数が小数の場合の除法の計算を行うこと。

② 課題の解消やよさの伸長に向けて

【国語】

- ・日頃の漢字練習や小テスト等を通し習得を目指すとともに、学習や日常の中で文を書く際に積極的に漢字を使用する習慣をつける。
- ・短い文だけでなく、ある程度の長い文についても主語と述語の関係を捉えながら文の内容を理解できるようにする力をつける。その際、「～は」、「～が」などを手がかりに形式的に判別するのではなく、文全体の構成を理解し、主語と述語の関係を捉えられるようにしていく。
- ・物語を読み、自分なりの考えをもち表現する学習において、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結びつけ、それらを基に人物像や物語の全体像について考えられるような指導を行っていく。

裏面もあります

- ・読書に一層慣れ親しめるよう読書活動を推進していくとともに、読書を通して自分が考えたこと、気づかされたことなどを表現したり交流したりする活動を行う。また、そういった感想の記述を振り返る活動も取り入れるなど工夫していく。

【算数】

- ・数量の関係をつかみにくい問題の解決において、図などを用いて、数量関係を捉えられる活動を行っていく。「多い」のでたし算、「少ない」のでひき算と形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、図と問題文それぞれの数量の関係を比べ、捉えられるような力をつけていく。
- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を処理する場面を扱う際に、図や式を場面と関連付けて計算に成り立つ性質を活用していることを理解できるようにしていく。さらにその求め方を筋道を立てて説明できるようにしていく。
- ・本調査の設問のように、ボールがぴったり入る立方体の体積を求める活動を行っていく。その際、球はどこから見ても同じ円であることやその円の直径は球の直径に等しく、さらに立方体の一辺の長さと同じことを理解できるようにしていく。また立方体の体積は一辺の長さを測ることによって、(一辺)×(一辺)×(一辺)で求められることを理解できるようにしていく。
- ・ $540 \div 0.6$ のようなわり算を筆算で処理するだけでなく、 $5400 \div 6$ の答えと等しいという割り算の性質を用いて考えることができることを指導していく。
- ・速さを単位時間あたりに移動する長さとして捉え、速さを図と言葉で説明する活動を大切にしていく。

児童質問紙調査から

① 見いだされた状況

- ・朝食をあまり食べていないという児童が児童が若干いる。
- ・ゲームやスマホ、携帯電話等での動画視聴に費やす時間が長い児童の割合が、全国よりも高くなっている。一方で、学習でのタブレット機器の活用については、活用しきれていないと感じている児童が多い。
- ・「先生が自分を認めてくれていると感じている」、「困りごとを先生や学校の大人に相談できる」、「友達関係に満足している」などの質問は、全国と同等かやや高いものがある。それに対し「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っているか」という質問の結果はやや低く、自信をもてない児童がいることが分かる。
- ・国語の内容の理解については自信をもてない状況がうかがえるが、意欲、必要感については肯定的な回答が多く見られる。算数については理解、意欲、必要感いずれについても、やや自信をもてない状況がうかがえる。
- ・これまでも課題であった家庭学習に費やす時間については、2時間以上の児童の割合が全校や県を上回っているものの、家庭学習に費やす時間が少ない児童もおり、全体的にみると全国より少ない傾向である。

② 課題の解消やよさの伸長に向けて

- ・児童の自己有用感を高められるよう、学級経営を充実させつつ、児童に寄り添った適切な声かけを行っていく。
- ・児童の資質や能力の向上のため、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を全職員で行っていく。
- ・学習における1人1台端末の活用をより一層充実させ、児童が学びを深めるためのツールとして活用できるようにしていく。
- ・学校と家庭との連携をより進め、家庭学習の充実、生活習慣の向上等にとともに取り組んでいけるようにしていく。

以上です。

地域やご家庭の皆さまとともに、未来に生きる子供たちにとってあったかい思い出となる「ふるさとの学校 大里小学校」を創り上げていきたいと思っております。本校教育活動への変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。